

## しなの鉄道総合連携計画

- 総合連携計画の策定年月日 平成22年 2月18日
- 総合連携計画の区域  
しなの鉄道(株)しなの鉄道線(軽井沢～篠ノ井間)沿線9市町(長野市、上田市、小諸市、佐久市、千曲市、東御市、軽井沢町、御代田町、坂城町)の区域
- 基本的な方針  
地域全体の公共交通の維持・安定、さらには効果的かつ効率的で持続可能な公共交通システムを実現するため、沿線地域が一体となって、この地域の公共交通機関の中で基幹的な位置にあるしなの鉄道の経営の安定を図る。
- 総合連携計画の目標  
平成21年度の輸送人員を基準として、輸送人員の減少に歯止めをかける。
- 事業及び実施主体
  - ・ しなの鉄道線軽井沢～小諸間の増便・軽井沢駅での新幹線との接続改善 (実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
  - ・ 企画列車の運行等(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
  - ・ 情報提供の高度化(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
  - ・ 沿線イベント情報の発信(実施主体:しなの鉄道活性化協議会)
- その他連携計画の実施に関し必要と認める事項  
その他必要と認める事項は特になし。

## しなの鉄道活性化協議会

設置年月日:平成21年2月16日  
 構成員:長野市、上田市、小諸市、佐久市、千曲市、東御市、軽井沢町、御代田町、坂城町、長野県、沿線9市町商工会議所・商工会、しなの鉄道観光協議会、沿線住民代表

■旅客サービスの向上

- ・軽井沢～小諸間の増便
- ・軽井沢駅での新幹線との接続改善
- ・駅舎の改築、ホーム扛上、エレベータの設置等
- ・169系車両の更新
- ・企画列車の運行、企画切符の発売
- ・パーク&ライドの推進

など

■駅及び駅周辺  
の活性化

- ・バザー、コンサート
- ・作品展示
- ・空きテナントへの  
店舗誘致  
など

■地域との連携

- ・沿線イベント情報の  
発信
- ・地域イベントとの連携
- ・集客施設との連携
- ・ボランティアによる  
駅周辺環境整備  
など



# しなの鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 初年度・2年度目）の概要

## 平成23年度事業実施概要

### 検討の経緯

#### ■23年5月：第1回協議会

- ・平成22年度の事業報告と決算
- ・平成23年度に実施する事業の実施計画及び予算について

#### ■23年10月：第2回協議会

- ・軽井沢－小諸間増便事業の中間報告（輸送人員、輸送密度の動向等）
- ・利用者アンケート調査結果報告
- ・沿線地域としなの鉄道との連携による利用促進策について

#### ■24年2月：第3回協議会（予定）

- ・平成23年度事業全体の実施状況
- ・平成24年度実施事業概要（案）

## 事業実施状況及び今後の展望

### 事業名：軽井沢・小諸間列車増便事業（実証運行）

<実施主体>しなの鉄道活性化協議会

- ・昨年8月から継続実施（軽井沢駅での最終新幹線との接続については、昨年12月からの継続実施）
- ・上り7本、下り7本の合計14本
- ・軽井沢駅での下り最終新幹線との接続列車を増便
- ・軽井沢－長野間の直通列車を増（上り下り計15本→19本）



- ・増便列車の利用者は他の定期列車からの流動もあるため、新規利用者の開拓を図ることが課題である。
- ・増便による利便性の高まったダイヤについて、更に周知を図っていくことが必要。
- ・新幹線を利用した首都圏からの誘客が期待されることから、こうした地域でのPRが重要。

- ・利用者アンケートの結果から、増便による効果として首都圏への通勤範囲の拡大や首都圏居住者の移住・定住促進、他路線との接続改善により利便性の向上等が評価・期待されている。増便事業を継続しながら、利便性の高いダイヤを定着させ、こうした効果の向上、利用者増につなげていく。

### 事業名：企画列車の運行、企画切符の販売

<実施主体>しなの鉄道活性化協議会

- ・二次交通（バス）との連携  
バス旅行をセットにしたフリー切符の販売
- ・大型商業施設との連携  
商業施設の商品券をセットにしたフリー切符の販売
- ・地域イベント、地域スポーツとの連携  
沿線の地域イベントや地域スポーツの開催案内を絡めた誘客
- ・シルバー向けフリー切符の販売  
商業施設のクーポン券をセットにした高齢者向けのフリー切符販売



- ・これまで続けていた乗車人員の減少傾向には一定の歯止めが掛かってきており、企画列車、企画切符及びこれらの広告宣伝活動についても、一定の効果があったものと思われる。

- ・引き続きお客様ニーズの把握・分析を行い、その時々々のニーズにマッチした適切な商品を企画・提供することで、利用者の増加につなげていく。

事業実施状況及び今後の展望

事業名：情報提供の高度化

＜実施主体＞しなの鉄道活性化協議会  
 ・首都圏からの誘客を促進するため、首都圏主要駅や列車内のモニター広告、パンフレットスタンドなどを活用し、しなの鉄道沿線の観光スポットやイベント情報、しなの鉄道と新幹線との接続利便性等を積極的に情報発信。



- ・東京、神奈川、千葉、埼玉の鉄道主要駅でのリーフレット設置
- ・東急電鉄、西武鉄道の車内モニターを活用した映像広告展開

・しなの鉄道沿線地域の魅力を情報発信するとともに、軽井沢～小諸間の実証運行を含めた、しなの鉄道と新幹線との接続性、他路線との乗換え利便性、お得な企画切符の紹介等をパッケージで情報提供。

事業名：車内中吊り広告掲出

＜実施主体＞しなの鉄道活性化協議会  
 ・4月～：沿線イベント情報等を車内中吊り広告として順次掲出



(4月～3月)

- ・しなの鉄道沿線の公共に資するイベントを中心に車内広告を行い、鉄道利用によるイベントへの誘客、地域の活性化を図った。
- ・鉄道の持つ優位性についてアピールする中吊り広告を行い、公共交通機関の利用促進を図った。

・中吊り広告を活用した情報発信は、沿線のイベント参加者及びしなの鉄道の利用者増に一定の効果があったものと思われるが、魅力ある地域イベント等の情報を継続して発信していくことが重要。

# しなの鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 初年度・2年度目）の概要

## 前年度二次評価結果等に係る事業の概要

### 二次評価における主な指摘事項

・利用者の要望・課題を把握し、乗降客数の減少傾向の問題点を検証していくことを期待します。

・地域関係者によるさまざまな財政支援の取組みについても行われるよう働きかけて頂くことにより、本格実施に向けたより良い事業実施環境を整えて頂くことを期待します。

### 二次評価に係る主な事業実施状況

・利用者アンケートの実施や個別の聞き取り調査等により、しなの鉄道に対するニーズの把握・分析に努めた。これらを踏まえた、利用客の増加に向けた施策の具現化に向けて、取組みを継続していく。

・計画事業3年目に当たる平成24年度においては、国からの補助金が無くなるという厳しい状況にはあるが、しなの鉄道及び沿線地域の活性化に向けて、地域関係者及び鉄道事業者との連携に基づき、計画事業を実施継続していくこととしている。

## 今年度事業のポイント

### 地域住民・利用者の意見を反映させた点

- ・昨年利用者から好評だった大型商業施設との連携企画について、対象となる商業施設を拡大して実施した。
- ・協議会での提言や個別の聞き取り調査でも意見のあった高齢化を背景としたシルバー向け商品の企画として、「ナイスシルバーフリー切符」を発売した。
- ・沿線に地域スポーツチーム（bjリーグ）が創設されたことから、観戦ツアーと絡めた誘客を図るための広告宣伝を行った。

### 協議会として特に工夫して取り組んだ点

#### 【協議会】

- ・バス事業者や他の鉄道事業者をはじめ、大型商業施設、沿線地域イベントの実行委員会等との幅広い連携により、多様な企画商品の設定を図った。
- ・従来あまり行われていなかった首都圏向けの情報発信に注力。実証運行との相乗効果を図った。

#### 【自治体】

- ・自治体広報紙に協議会事業のPR記事を掲載し、事業の推進を図った。
- ・マイルールとしての企画列車の運行、地域イベントとの連携による利用促進を図った。

#### 【事業者】

- ・沿線の各主客層ごとに、しなの鉄道に対するニーズ等の聞き取り調査を行い、これらを踏まえた事業展開に努めた。

#### 【地域住民】

- ・ボランティアによる駅清掃や植栽等、自分たちの鉄道を応援するといった取り組みが行われている。